

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103730
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 笹貫の家
訪問調査日	平成20年11月18日
評価確定日	平成20年12月23日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670103730
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 笹貫の家
所在地	鹿児島市小松原一丁目1番2号 (電話) 099-268-2627
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番地1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年11月18日

## 【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	9人, 非常勤 8人, 常勤換算 14.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000	その他の経費(月額)	18,000	円		
敷金	有( )円	(無)				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無			
食材料費	朝食	300	円	昼食	400	円
	夕食	400	円	おやつ		円
	または1日当たり 円					

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85歳	最低	71歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	野上病院 田上記念病院 西歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道や電停に近く、交通の便の良い商店街の一角に建てられたホームである。周辺のにぎやかさに比べて、ホーム内は穏やかな雰囲気であり、利用者と職員の笑顔に包まれてゆったりとした時間が流れている。月に一回、利用者と共にホーム近辺の清掃活動を行っており、日常的な商店街での買い物や散歩と合わせて、地域との交流に努めている。職員間で利用者一人ひとりのケアの方法について熱心に話し合い、認知症についての知識と技術の向上を図りながら、尊厳を重視した支援を行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期に向けた方針については関係者間で共有し、終末期に向けてスムーズに対応できるように話し合う機会を持っている。現状に即した介護計画の見直しについては、毎月のケアカンファレンスで介護計画を確認し、状態変化があった場合には早急に対応できるようにしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は項目毎に担当者を決めて実施しており、管理者がまとめ上げている。その上でミーティングにおいて職員全員に報告して、項目についての意義や疑問点について話し合いながら作り上げている。外部評価結果についても、職員全員で具体案を話し合い改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、ご家族をはじめ利用者代表や民生委員が参加して、ホームの状況や活動内容、今後の計画等を報告している。参加者からの質問や意見には迅速に対応して、サービス向上に活かせるように努力している。様々な立場からの参加を働きかけているが、行政担当者の出席が少ない。運営推進会議の役割と意義を十分に理解して、より幅広い立場からの参加を積極的に働きかけていただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置し、苦情・相談窓口としての第三者委員会を家族懇談会や便りの中で紹介している。面会時には、意向や相談を聞く機会として積極的に話しかけ、出された相談・苦情の内容はノートに記録し、解決策や結果は職員全員に周知し、運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、回覧板や民生委員から行事紹介を受けており、ふれあい会食や敬老会・運動会などに利用者と共に参加している。教会の宣教師によるハロウィンパーティーや町内会のフラダンス披露など、ボランティアの受け入れも行っている。また、月に一回日曜の朝には、自主的に近辺の清掃活動を実施するなど、地域貢献にも努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に法人代表と職員全員で作上げた理念であり、地域社会やご家族との関わりを重視した内容が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所やホームの入り口に掲示しており、管理者は、理念に基づいた具体的な対応方法を職員のレベルに応じて説明しながら、統一したケアが行えるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板や民生委員から行事紹介を受けており、ふれあい会食や敬老会・運動会などに利用者と共に参加している。教会の宣教師によるハロウィンパーティーや町内会のフラダンス披露など、ボランティアの受け入れも行っている。また、月に一回日曜の朝には、自主的に近辺の清掃活動を実施するなど、地域貢献にも努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は項目毎に担当者を決めて実施しており、管理者がまとめ上げている。その上でミーティングにおいて職員全員に報告して、項目についての意義や疑問点について話し合いながら作り上げている。外部評価結果についても、職員全員で具体案を話し合い改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族をはじめ利用者代表や民生委員が参加して、ホームの状況や活動内容、今後の計画等を報告している。参加者からの質問や意見には迅速に対応して、サービス向上に活かせるように努力している。様々な立場からの参加を働きかけているが、行政担当者の出席が少ない。	○	運営推進会議の役割と意義を十分に理解して、より幅広い立場からの参加を積極的に働きかけていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとは、空き状況の報告をしたり、受け入れについての相談を受けるなど、情報交換を行っているが、市の担当者がホームを訪れることはなく、暮らしぶりを見ていただく機会作りの働きかけは今のところ見られない。	○	市担当者に、ホームの暮らしぶりを見ていただく機会を作り、共にサービスの質向上に取り組むことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回発行される「笹貫だより」には、日々の暮らしぶりや職員の紹介を写真入りで掲載している。さらに行事案内や伝達事項も記載して、請求書と共に郵送しており、心身の状態については面会時や電話でご家族に報告している。また、面会時には金銭出納帳に確認のサインをもらい、遠方のご家族には出納帳のコピーを郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情・相談窓口としての第三者委員会を家族懇談会や便りの中で紹介している。面会時には、意向や相談を聞く機会として積極的に話しかけ、出された相談・苦情の内容はノートに記録し、解決策や結果は職員全員に周知し、運営に反映している。		ご家族から出された苦情・相談のうち、他のご家族にも共通するようなものについては、個人情報に配慮しながら積極的に公表することで、さらに意見を出しやすい環境作りに努めていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員が対応することの重要性を認識しており、職員の交代があった場合は、新しい職員が利用者や馴染むまでコミュニケーションを重視している。さらに、認知症や標準的なケアについての指導を実施し、夜勤も力量に応じて回数を決めるなど、利用者へのダメージを最小限に防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年間計画を立て、2ヶ月に1回、担当職員を決めて実施しており、自己学習発表の場として知識向上に取り組んでいる。外部研修については、経験や力量に応じて参加者を人選しており、資格取得についても積極的に取り組んでいる。		現行の仕組みに加えて、職員の経験や習熟度、立場や役割に応じて育成するための計画を立て、さらなる資質向上を目指していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホーム職員と、研修や行事を合同で行っている。グループホーム連絡協議会の会合には職員の参加も予定しており、同業者との交流や意見交換を行う機会を作り、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学してもらい、一緒にお茶を飲んだり一日体験をしていただいている。ホームに来れない方には職員が自宅や病院を訪問して面談しており、納得した上でサービス利用ができるように工夫している。また、入居後もご家族の面会を促しながら、安心して過ごせるように配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の下ごしらえや掃除は、利用者と共にしている。会話の中では、利用者の経験や知識から人生の教訓や生活の知恵を教えてもらう機会を多く作り、感謝の気持ちを伝えており、常に学ぶ姿勢を持ちながら接するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の自己決定を尊重し、必ず利用者の了解を得てからケアを実施するように心がけている。選択する機会も多く持つよう努め、意思表示が困難な場合は言葉や行動から希望や思いをくみ取り、ご家族や職員間で話し合いながら、情報やケアの方法を共有できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議にご家族の参加を促しており、遠方の場合は電話で確認しながら情報交換を密にして、本人やご家族の思いや意見を計画に反映させている。アセスメントを含め、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、担当職員が現状から見たニーズやサービス内容を提案している。ご家族には面会時や電話で要望を聴取しており、かかりつけ医の意見やアドバイスも取り入れながら、状態変化時や、定期的な介護計画の検討と見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用開始時に、連携している歯科医院で受診をしていただき、医師と話し合いながら個別口腔ケア計画を作成して、3～4ヶ月に1回の口腔内確認と義歯相談を受けられるようにしている。かかりつけ医の受診時は送迎支援を行っており、訪問マッサージや訪問看護の利用支援も実施している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診付き添いは、原則としてご家族に行っていただいている。ホームとしては、入居中の状態記録を準備して、医療機関との情報共有ができるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的に看取りは行っていない。利用前にホームの方針を説明しており、病状悪化等の変化に応じてご家族を交えて話し合いを行い、緊急時の対応方法や搬送病院を取り決めている。ご家族より同意を得て、職員に周知して方針の共有を行っている、		
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、一人ひとりの尊厳に配慮した声かけ・対応を心がけており、入浴時は同性介助とし、一つひとつのケアにおいても、必ず本人の了承を得てから行うようにしている。新入職員にはプライバシーの確保について指導を行い、誓約書を交わしている。経過記録等の個人情報については、適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や起床・就寝時間をはじめ散歩に出かけることなど、ホームの決まりにとらわれずに、一人ひとりのペースや希望に合わせて生活できるように柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査に基づいて職員が献立を立て、個別の好みに合わせて代替品を準備したり、形態を変えるなどの配慮が見られる。基本的には、職員と共にテーブルを囲んで同じ料理を食べているが、希望に応じて思い思いの場所で食べることができるように柔軟に対応している。また、行事食や旬の食材を活用するなどして、食事を楽しむことができるような支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間は、利用者の状態や希望に応じて柔軟に対応しており、入浴と爪切りの実施をバイタルチェック表に記載している。入浴拒否のある方の場合にはご家族に協力をもらい、銭湯を利用しながら少しずつホームで入浴ができるように働きかけている。一人で入浴したいという希望にも、意向に沿うように支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員と一緒に家庭菜園の手入れを行い、収穫した野菜はメニューに加えている。家事やメダカの餌やり、ダイニングルームにある仏壇の花の水かえなど、経験や力量に応じた役割と楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買い物は、職員と一緒に近所のスーパーに出かけており、散歩やドライブ・墓参りなど、希望に応じて戸外へ出かける機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	可能な限り鍵をかけないように、個別の所在確認やご家族の面会などの協力を得るようにしているが、必要に応じてやむを得ず施錠する際は、ご家族へ説明して納得をいただいている。また、単独で外出された場合も想定して、近隣の方々に協力を働きかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、消防訓練を実施しており、日中および夜間の通報・連絡・避難訓練など、具体的な訓練を実施している。職員の携帯電話にネットワークシステムを加え、通報時に全職員へ連絡が入るようになっている。民生委員や町内会を通じて、近隣住民に避難時協力の呼びかけを行っており、地震や水害に備えた防災訓練も計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、栄養と水分摂取量低下による危険性を理解して摂取量観察に努めており、介護記録とバイタルチェック表に詳細を記載し、利用者の好みやタイミングおよび状態を考慮しながら支援している。献立については、栄養士資格のある職員が栄養バランスを考慮しながら作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり 木					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたダイニングにはソファコーナーがあり、仏壇やメダカの水槽が置かれている。壁には利用者が作成された短歌や装飾品が飾られ、ホームの周りに咲いた季節の花を活けるなどして、季節を感じながら心地よく過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子やテーブル、位牌、テレビやラジカセ、植木鉢など、使い慣れた馴染みの物が持ち込まれている。希望に応じて直通電話も引かれており、壁にはご家族の写真や短歌などが自由に装飾されて、居心地の良い居室空間となるように配慮されている。		